

## 倉吉市公立保育所の再編計画〔案〕

### 1 背景

- (1) 少子化（入所児童数の減少）に伴う私立保育所の定員の引き下げによる運営
- (2) 少子化、核家族化等により家庭や地域の子育て力が低下、求められる支援体制の強化
- (3) 子ども・子育て支援新制度の開始、小規模保育事業等地域型保育事業の創設

### 2 公立保育所の現状と課題

- (1) 就学前児童数は素案策定時の見込みより早めに減少。入所児童数は素案策定時の見込みよりゆるやかに減少。児童の年齢に応じた集団保育が難しい状況は、依然として変わらない。
- (2) 老朽化し、ニーズに合わなくなった施設 順次改修を行っているが、今後も大規模改修等に多額の費用が必要。
- (3) 保育士不足と臨時保育士の増加 正規職員割合の低下。フルタイムの臨時職員の確保が難しい。結果として、担任を任せる人材が不足、また、年度途中の入所に対応できない状況。保育士の仕事は肉体労働であり、勤務時間が不規則、保育以外の記録や保護者対応等、内容が多岐にわたる。それに見合うだけの収入が得られないため、保育士不足となっている。
- (4) 子ども・子育て支援新制度への対応 公立保育園の認定こども園への移行の検討  
多様化する保育ニーズへの対応（障がいのある子など配慮を要する児童の積極的な受入、夜間保育の検討）

### 3 公立保育所の再編に関する基本的な考え方

幼児期の子どもの健全な成長と発達を促すことを基本に、子どもを含めた人的・物的資源を有効活用し、子どもを含めた人的環境や施設面の環境等を整備し、子どもにとってよりよい保育環境を整備していく。

多様化する保育ニーズに対応するため、民間活力を導入するとともに、行政は、子育て支援センターの機能強化や発達障がい体制の充実など地域で必要とされる子育て支援を推進していく。

保育所の統合再編により保育士を確保し、正規職員の割合を高め、保育士の負担感、疲弊感を改善し保育の資質向上を図る。

また、再編にあわせて、認定こども園への移行を検討する。

限られた財源や資源を効果的に配分し、市の効率的な行政運営の構築に向け、総合的な観点で保育所の再編を進める。

### 4 再編案

素案を基本としながら、以下のとおり再編する。

- ① 西郷保育園（定員 80 人）・小鴨保育園（定員 90 人）・上小鴨保育園（定員 60 人）・関金保育園（定員 90 人）は、現状のとおりとする。
- ② 社・灘手保育園を統合し、定員を 90 人とする。  
統合の際には新たな施設を整備し、認定こども園への移行を検討する。建設地については、地域の保護者、住民の意見を聴き検討する。  
灘手保育園については、経過措置として小規模保育事業（0～2歳児）を検討する。

- ③ 北谷・高城保育園を統合し、定員を 90 人とする。  
統合の際には新たな施設を整備し、認定こども園への移行を検討する。建設地については、地域の保護者、住民の意見を聴き検討する。

以下の 2 園は設置主体としての責任を負うとともに、民間活力を導入し、柔軟かつ効率的な行政運営をめざして民間委託する。

- ④ 上井保育園（定員 75 人）  
民間委託（指定管理、運營業務委託）
- ⑤ 倉吉西保育園（定員 60 人）→定員については見直しが必要  
民間委託（指定管理、運營業務委託）

## 5 再編計画案策定に向けての今後の取組み

- (1) 説明会の開催、再編計画案の周知と意見交換（平成 28 年度～）

# 倉吉市公立保育所の再編計画(案)

